生活支援シート　Ｂタイプ（活動・生活場面）

氏名：Ａさん（８歳）　　※記入例		記入者：水野
生活場面：屋内レクレーション		日付：2017/10/21現在
活動 （※生活シナリオ）	現在の状況	指導・支援計画
活動全体を通して	見通しが持てなくて、イライラしたり、集まっているお時に離席したり、様々なものを触りに行ったりすることがある、	レク全体の手順ボードだけではなく、個別のめくり式の手順カードを活用する。イライラや離席の多さによって、カームダウンや遊びのエリアに変更カードで促す。
会場の到着時	自由な時間が多くなると、消火器やスイッチなどが気になって扱う。転導的に色々なものを触り動き回ることがある。	レクレーションが始まるまでは、休憩・個別遊びスペース活動する。感覚遊び、ミニカー遊び、絵本を準備して実施する。パーテーションは本人の状態で２～３面で準備する。
全体でお話を聞く	話が長くなったり、終わりが明確でないと集団から抜けだして、様々なものを触り回ることがある。時々、イライラして泣いたり、癇癪になることがある。	全体の見通しは、レク全体の手順ボードだけではなく、個別でめくり式の手順カードを持つ。あまり長くでイライラしそうになる前に変更の追加カードで「カームダウンエリア」に移動する。タイマーで終わりの合図で、もとに戻る。
音楽、歌、手遊びの活動	慣れ親しんだものは歌ったり、手遊びをしたりする。新しいものには注意を向けないことが多い。音楽のテープや、一部の小さい子の声で耳ふさぎをすることがある。見通しは必要。	新しい歌は、本人の目の前でモデルを見せる。無理に同じにさせないで、部分的にできてもＯＫにする。間違いの修正とうはしない。耳ふさぎの時はイヤーマフを変更カードで提案する。本人がはずしたら無理にはめさせないで、イヤマフの絵がはってあるボックスに入れる。
工作活動	材料を見るといままで経験したことをイメージして自己流の内容をつくることがある。ハサミは使えるが線をぶれずにきることは難しい。糊は難しい。色塗りは枠からはみ出る。	写真又実物の完成見本を準備する。同時に支援者がモデルを見せるための材料を１つ準備する。切る線は１ｃｍ程度の太さにする。糊ではなく、事前に両面テープを貼っておく。
ゲーム	モデルを観るとある程度同じようにできる。順番交代のイメージがなく、１度モデルを観るとやりたがる。どこに立つ、どこから投げるの場所のイメージが難しい。	全体のモデル提示で注意喚起する。モデルを観た後、「待ちます」のカードを提示する。本人の番の合図を準備する。場所に関して印をつける。自分の番が終ったら「待ちます」カードを提示する。
癇癪時の対応	見通しが持てない時、言語指示がわからないのに指示が続くときなどに癇癪になることがある。大きな声をだし、飛び離れる。癇癪が激しい時に止めたり言語指示をル続けると癇癪が強くなる。	周囲の安全を確認し、周囲の人に距離をとってもらう。少し落ち着いた時に、次の活動を提示する。次の活動は落ち着く、単純な活動にする。カームダウンエリアは、癇癪の後は使わない。

※生活シナリオ引用：自閉症の療育ハンドブック　学研　佐々木正美先生

※シートの記入方法に関しては書籍『フレームワークを活用した自閉症支援』（６４～６５頁）を参考にしてください。　検索″自閉症フレームワーク”